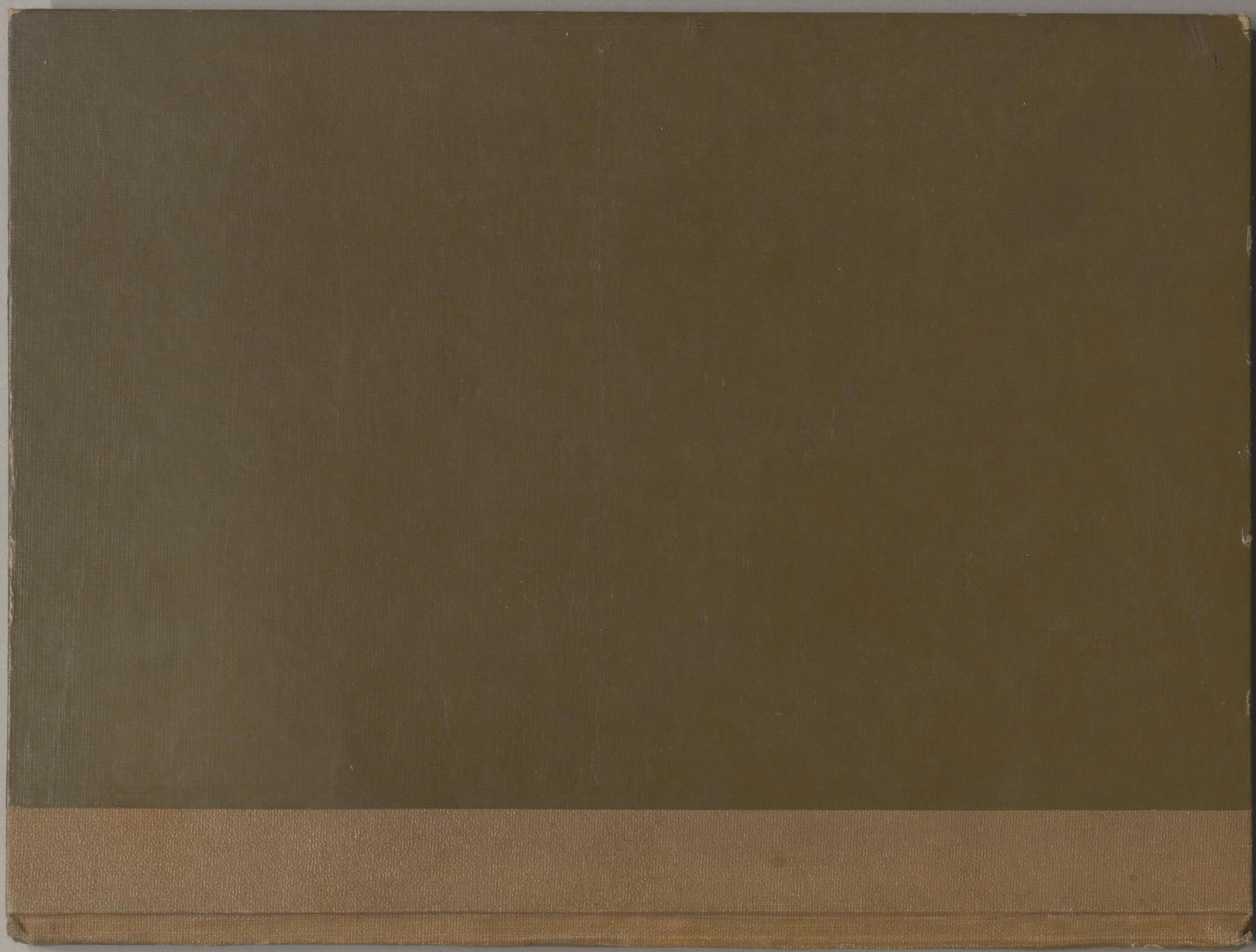
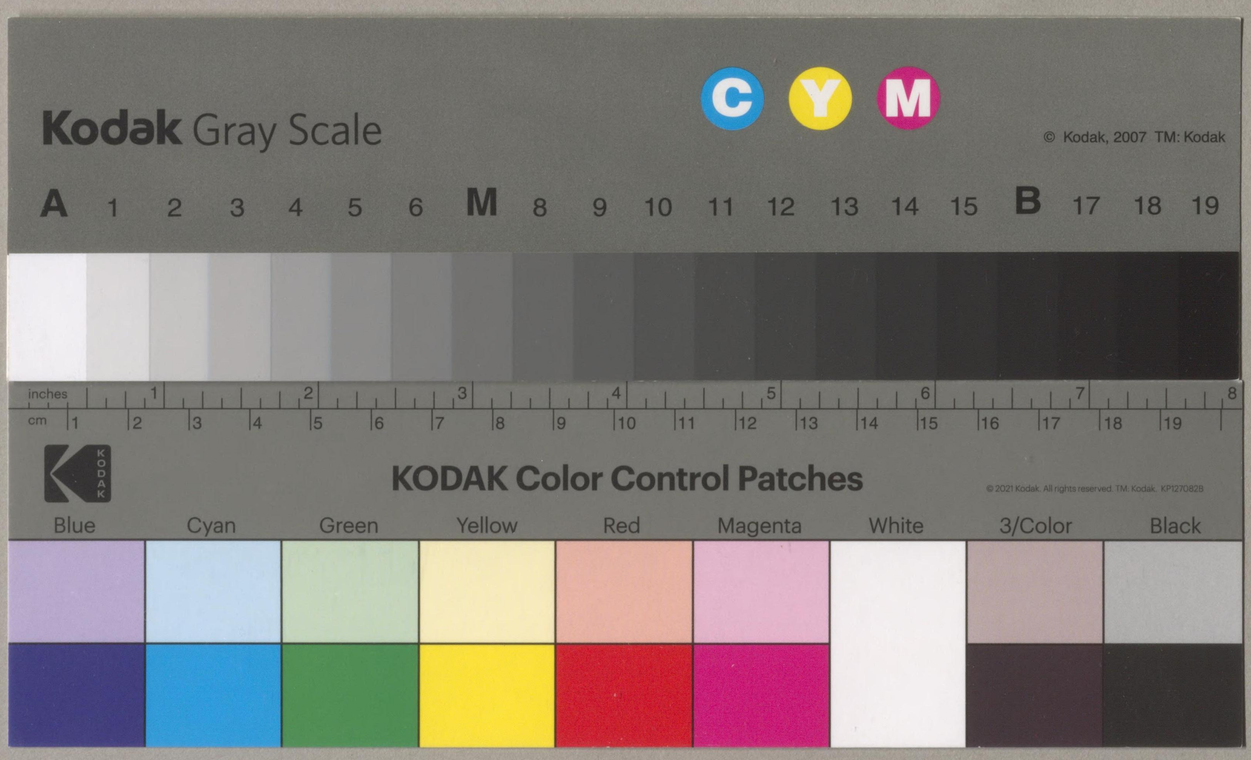



Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
KODAK Color Control Patches
© 2021 Kodak. All rights reserved. TM: Kodak. KP127082B
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

83
486

83
486

外
3000
お

印象派選集

83
486

83
486

723
I57

印象派畫集

マネ・モネ・シスレエ・ピサロ・ルノアール・ドガ
セザンヌ・ゴオホ・ゴオガン・ロートレク・スラー

TOKYO
ATELIER-SHA
1929

83
486

83-486

水　　浴

ルノアール

83
486

西班牙のギタ彈き

マ　キ

83
486

83
486

西班牙の踊場

マ　ネ

83
486

83
486

雪景

モネ

83
486

83
486

赤襦袢の娘

ルノアール

83
486

83
486

朝の支度

ドガ

83
486

ルウブル遠望

ピサロ

83
486

風　　景

シスレエ

83
486

メイ・ベルフォード嬢

ロートレク

83
486

IMPERIAL LIBRARY

83
486

男の肖像

セザンヌ

83
486

鐵　　橋

ゴオホ

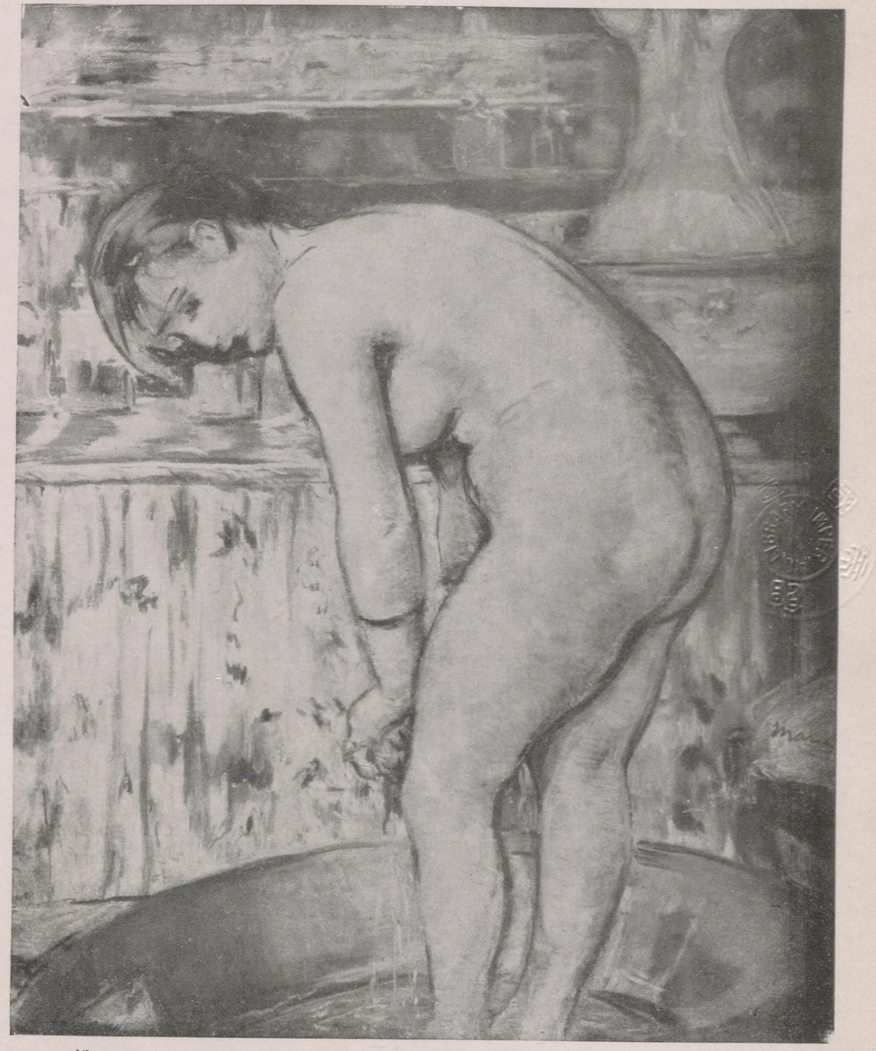
83
486

赤い犬のゐる風景

ゴオガン

83
486

83
486



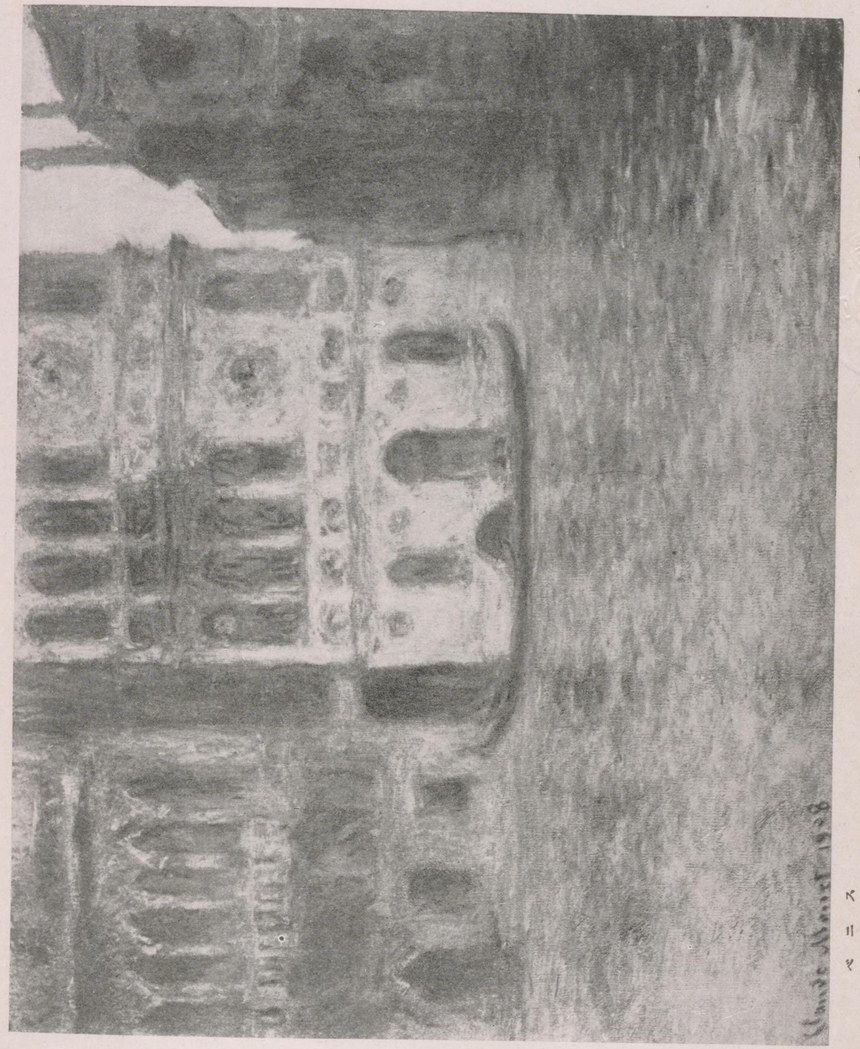
浴女　マネ

83
486

83
486

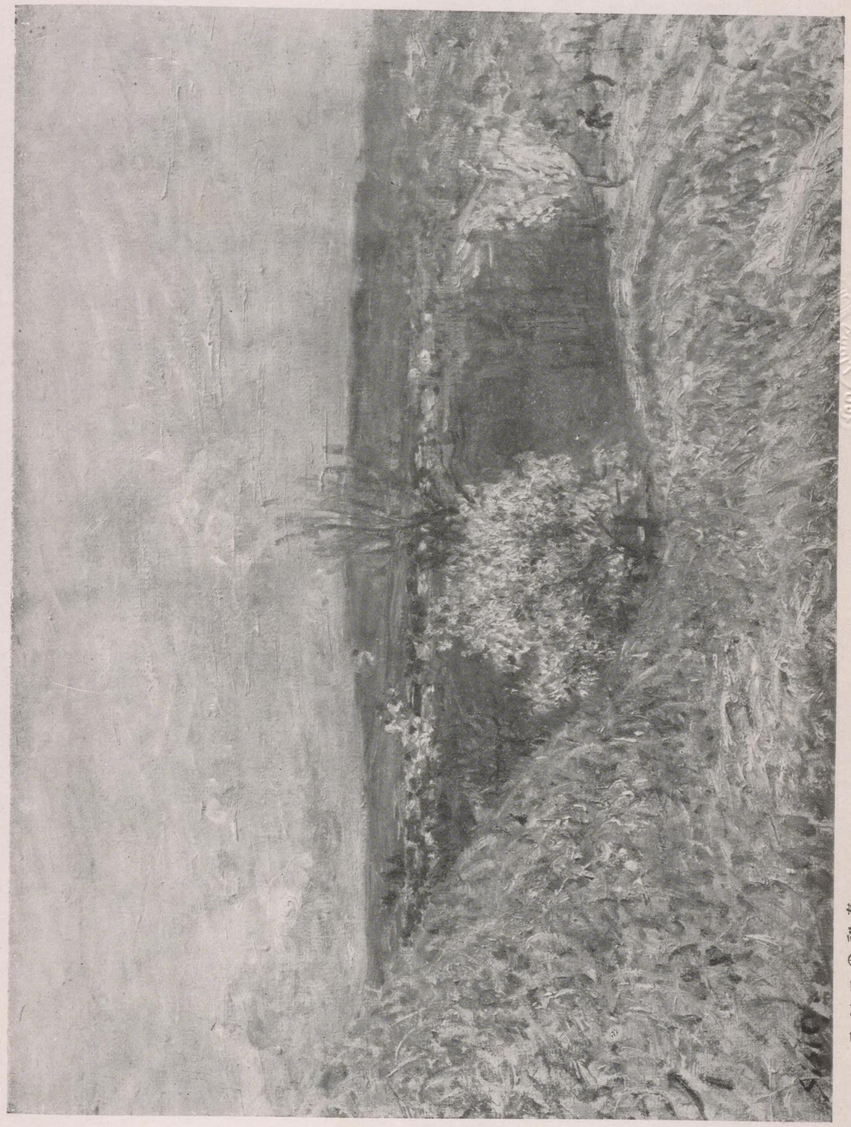
花園

83
486

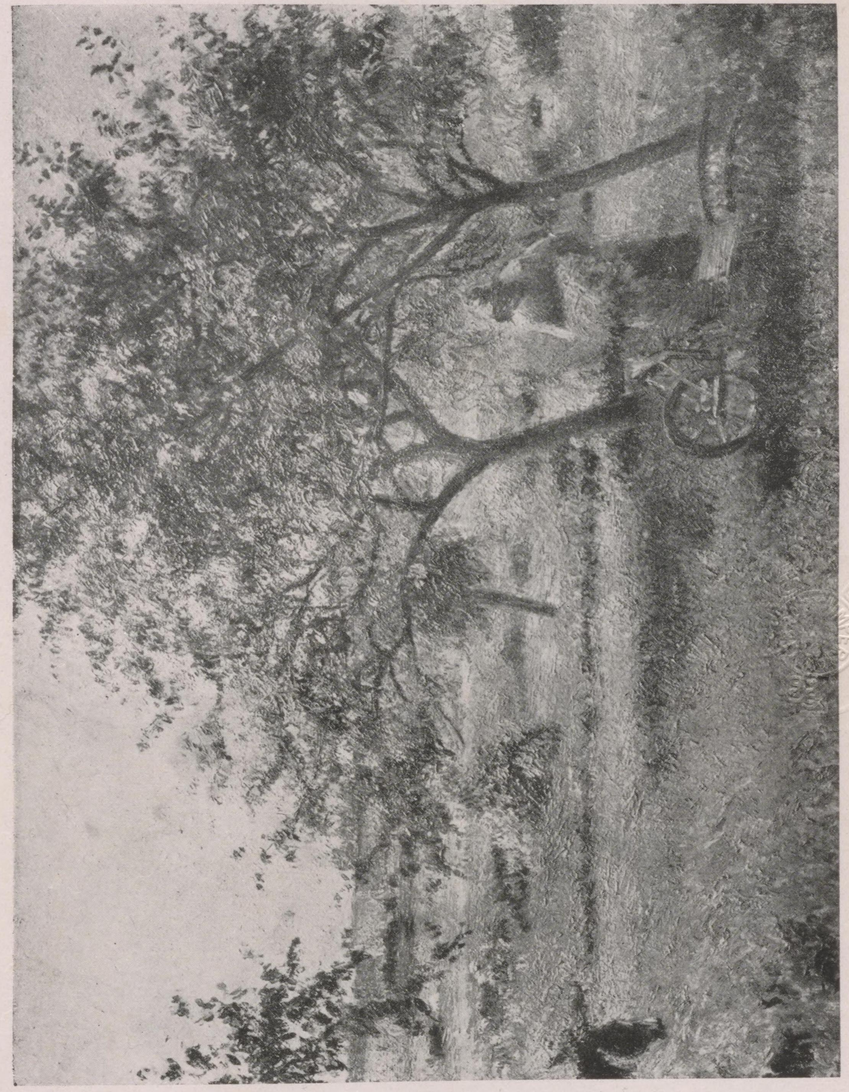


Claude Monet 1918

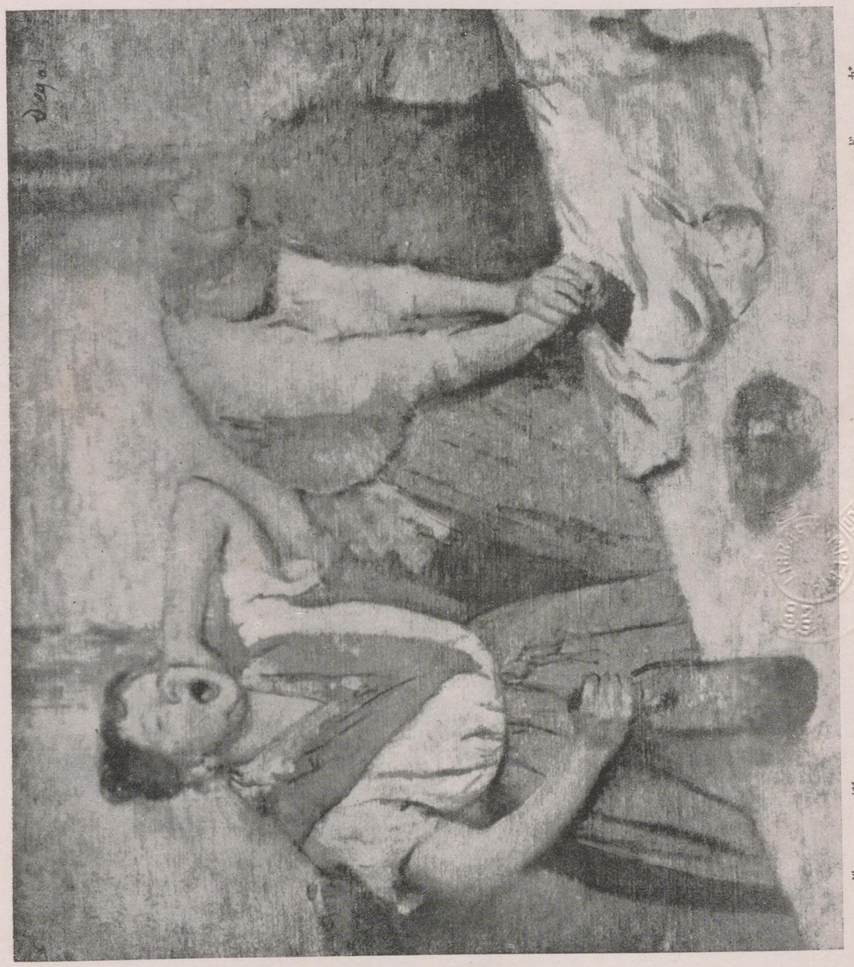
83
486



モレエの利休



荒庭



洗濯

風景　　ルノアール

セザンヌ

エスタツク風景

タイチの女

ゴーガン

音　樂　會　　ロートレック

スター

グランド・ナヤットの夏の日曜日

印象派

正宗得三郎

印象派（L' impressionisme）と云ふ名稱は、彼等自ら稱へ出したものではない。

千八百七十四年春、三十九名の畫家、彫塑家、版畫家等が無名協會の基に巴里市ブ。ルヴァル・ド。・カピュシンの寫眞屋を借りて展覽會を開催した。その展覽會の出品畫の中に、クロオド・モネのアンプレシヨン・ソレェユ・ルヴンと題する、（日の出の印象）港の日の出を寫した畫があつた。この展覽會を揶揄するによい思ひつきだと思つて、諷刺新聞のシヤリヴリ紙が第一に、諷刺的に印象畫家の展覽會と云ふ見出しでひやかし半分に書き立てた、公衆は面白がつて印象派だと云つて笑つた。處がこの印象派と云ふ皮肉の名稱が何處か適評の意味も含んでゐるので、當の畫家達も便宜上用言としたのである。

この印象派の展覽會は、千八百七十七年再びこの群の人達に依つて開催された。公衆は更に嘲笑して、おい、もう止せよと叫んだ。

この展覽會の第一回の時にはマネは出さなかつたが、モネ、ルノアル、シスレエ、セザンヌ、ピサロ、ギヨォオマン、モリソ、ドゥガ、ラソゥシユ、レピン等が出品したのである。

印象派の名義の起つたのは、斯の如き意味からである。

この印象派の畫家達の作品が世間に嘲笑されても、他の畫家達の反感と譏謗を買つても、その畫の論理と、新趣味の表現は、やがて公衆に興味を抱かせ、畫界にもいつとはなしに認められ、遂に總ての流派の描法の中に流れ込んだ。その事に就いてルノアルは惡口を言つてゐた、畫家達迄がついて來たと談つてゐる。

彼等印象畫家は、發見せられた自然直寫より得來る興味に、日に日に自然を目標に突進した。印象派が今日成功したのは、各自に實際の力と努力があつたのと、一つは彼等の群がよかつた事も彼等を奮起さした。そして彼等は自然直寫から、特殊の手法

を獲得した。嘗て美術史上にない、感情傳達法を得た。その事は吾々が、古今の藝術を蒐めてゐる、ルウヴル美術館を見廻つて、カモンド伯のヌ゛ベル・コレクションの印象派の室に這入つた時位、畫面の異つてゐる事を感じさすものはない。

然し印象派が、マネの寫實、モネの天才に賴つて創造されたと言つても、それまでに佛蘭西の畫壇が印象派を生む迄に迫つてゐた事も考へねばならぬ。コロオ、ミレエ、クウルベ等の自然派、又寫實家の仕事はやがて印象派を生む、元動力となつてゐた事を察せねばならぬ。

印象派畫家の開拓した、自然描法は日に日に傳統の手法より離れて、自然の氣息に從つた。從つて筆觸のリズム、又畫面の盛り上げも平氣で自然を追求した。空間の美を描き遠近の調子を確め、そして活き活きとさせた。そして一方十九世紀の化學、物理の文化が直接でなくとも、間接に彼等に自然を活して見る眼と、畫面の色彩分列法に保證と自信力を與へた。

印象派に對する今日の不滿も、單んに時代の變化に過ぎん。何となれば、印象派それ自身は絕對的のものであるから。丁度東洋畫に於ても同じ意味で、南宗には南宗の樂んだ天地があり、又北宗には北宗の天地がある。常に藝術には一つの向つた意味を語ればよいのである。

私は日本人として、歐洲の畫廊を廻つた、そして印象派の藝術が近代の爲めか、その畫面を味ふ感じが吾々東洋人に快い事を切に感じた。恐らく以後東洋人は益々印象派を好むと信ずる。第一私が親しむ。

所謂印象派にも、前期印象派（プルミエール・アンプレシヨニズム）、後期印象派（ポスト・アムプレツシヨニズム）、新印象派（ネオ・アムプレツシヨニズム）、の別があり、又前期印象派となつた人の中に於ても一人一人各自、獨自の境地があるのは當然だ。普通マネ、モネ、シスレエ、ピサロ、ドゥガ、ルノアル、ロオトレツクを前期印象派と云つてゐる。人によつて、トゥガ、ロオトレツクは印象派でないと云ふ人もある。又眞の印象派はモネ、シスレエであると論ずる人もある。そしてセザンヌ、ゴオホ、ゴオガン、マチス等を後期印象派と稱へてゐる、シニヤク、スラア、クロスを新印象派と呼ぶのである。

印象派畫集　目次

原色版

水浴 オウギユスト・ルノアル …… 1
西班牙のギタ彈き エドアル・マネ …… 2
西班牙の踊場 エドアル・マネ …… 3
雪景（黒木三次氏藏） クロオド・モネ …… 4
赤襦袢の娘 オウギユスト・ルノアール …… 5
朝の支度 エドガア・ドガ …… 6
ルウブル遠望（一九二六年日佛展出品） カミイユ・ピサロ …… 7
風景（黒木三次氏藏） アルフレツド・シスレエ …… 8
メイ・ベルフォオド嬢 アンリ・ド・ツウルウズ・ロートレク …… 9
男の肖像 ポオル・セザンヌ …… 10
鐵橋 ヴインセント・ヴン・ゴオホ …… 11
赤い犬のゐる風景 ポオル・ゴーガン …… 12

眞色版

浴女 エドアル・マネ …… 1
葬列 エドアル・マネ …… 2
花園 クロオド・モネ …… 3
ベニス クロオド・モネ …… 4
モレエの初春 アルフレツド・シスレエ …… 5
裏庭 カミイユ・ピサロ …… 6
洗濯 エドガア・ドガ …… 7
風景 オウギユスト・ルノアール …… 8
エスタツク風景 ポオル・セザンヌ …… 9
狂人の顏 ヴインセント・ヴン・ゴオホ …… 10
タイチの女 ポオル・ゴオガン …… 11
音樂會 アンリ・ド・ツウルウズ・ロートレク …… 12
グランド・ヂュツトの夏の日曜日 ジオルジエ・スウラ …… 13
印象派 正宗得三郎 …… 14
諸家年表 …… 15

諸家年表

MANET (Edouard)

エドアル・マネは千八百三十二年一月二十三日巴里に生れ千八百八十三年四月三十日巴里に死す。

*

MONET (Claude)

クロオド・モネは千八百四十年十一月十四日巴里に生る。今ジヴルニイに隠栖してゐる。

*

RENOIR (Auguste)

オ・ギユスト・ルノアルは千八百四十一年二月二十五日リモォジユに生れ千九百二十年南方佛蘭西カニュウにて死す。

*

DEGAS (Edgar)

エドガア・ドゥガは千八百三十四年巴里に生れ、千九百十七年巴里に死す。

*

PISSARRO (Camille)

カミイユ・ピサロは千八百三十年七月十日植民地、セント・トォマ島に生れ、千九百三年十一月十三日巴里に死す。

*

SISLEY (Alfred)

アルフレトゥ・シスレエは千八百三十九年十月三十日巴里に生れ、千九百九年一月三十日モレエに死す。

*

LAUTREC (Henri de Toulouse)

アンリ・ドゥ・ツゥルゥズ・ロオトレクは千八百三十九年十月二十四日アルビに生れ、千九百一年夏巴里に死す。

*

CÉZANNE (Paul)

ポォル・セザンヌは千八百三十九年一月十九日、プロヴンス州エクスに生れ、千九百六年十月二十三日同じくエクスに死す。

*

GOGH (Vincent Van)

ヴインサン・ヴン・ゴオホは千八百五十三年に和蘭に生れ、千八百九十年七月二十八日佛蘭西に死す。

*

GAUGUIN (Paul)

ポオル・ゴオギヤンは千八百四十八年六月七日巴里に生れ、千九百三年五月八日南洋マルケサス島に死す。

*

SEURAT (Georges)

ジオルジエ・スゥラは千八百五十九年十二月二日巴里に生れ、千八百九十一年巴里に死す。

レオナルド ダ・ヴィンチ畫集

古典藝術の眞髓

畫道の最も本格的眞髓は古典に仰がねばならぬ。レオナルド・ダ・ヴィンチの雄類にして一糸亂れざる靈筆は、將に神に入れるもので、今人の達し得べき境域でない。其藝術的魅力、汪然たる迫力は、千古不滅を物語る。近代に至つて愈々なほ、多くの畫人が古典藝術への讃仰を、レオナルドに多く向けることは、蓋し彼の中に超時代的偉大な力を湛えてゐるからであらう。彼の代表的業績は悉く收め、又彼の抄傳は高田博厚氏の見識ある一文によつて要を盡くしてゐる。

四六倍判・美裝
精巧原色版・四葉
鮮明寫眞版三十葉

定價壹圓五拾錢
送料市内十二錢・地方十八錢

アトリエ社
東京牛込喜久井町
電話牛込四二六一
振替東京六六〇〇二

普及版

内容

原色版

聖母受胎（部分）
女の歳最
髪の後の晩
ザ・リナ・モ

寫眞版

博士の來拜
同上部分
同上部分
同上部分
同沙漠の聖ヘロニムス
同「巖の處女」部分（天使）
同上素描（稿草）
同「最後の晩餐」素描（基督の顔）
同上部分（ビツコ）
同上部分（同）
同上部分（同）
同聖母子とアンナ（部頭のダニ）
同上部分（聖アンナの頭部）
同上素描
同上素描（聖アンナの頭部）
同上素描（聖アンナの頭部？）
素描「戰のリアギアンナ」
洗禮のヨハネ
素描「像テヒダのヨキツロベ」
素描「テスデ・ラベサイ」
素描「子母聖る立」
素描物
裸體素描
裸體素描
風景素描
騎馬像のノラミ（素描）
手記ロテクス（素描）

ダ・ヴィンチ抄傳
高田博厚氏執筆

昭和四年十二月十五日印刷
昭和五年十二月廿日發行

印刷者 象派臺雲
東京市牛込區喜久井町三四
發行者 北原義雄
東京市赤坂區田町一ノ十五
印刷所 日本美術寫眞印刷所
東京市牛込區西五軒町三四
印刷所 日龍製版印刷所
東京市牛込區西五軒町三四
印刷所 福山印刷所
東京市牛込區喜久井町三四
發行所 アトリエ社
振替東京六六〇〇二・電話牛込一二四六

定價金一圓八十錢

普及版
マチス畫集

四六倍判 フランス紙 六十八葉

後期印象派以降に於いて現代美術の尖端を切つたのはアンリ・マチスである。今日、彼は巴里畫壇の王座にある老大家であると共に、新進も及ばぬ激烈の畫業を以つて、常に新しく、爽快である。彼の表現には近代感覺の精が跳躍し、色彩には滾々たる泉の清新を湛え、その手腕に至つては大膽、自由、慧敏、簡約を縱横に驅つて、彼の氣魄を一線一抹の中にも失なつてゐない。近代美術の生命に觸れんとするに、先づ我々はマチスを選ぶ。

本集は彼の初期作品より近作までを拔萃し、彼の全容を知るに遺憾なからしめ、低廉なる普及版として新裝された。

原色版四葉・寫眞版三十八葉・マチス抄傳—稅所篤二氏執筆

◆定價壹圓五拾錢　送料市內十二錢　地方十八錢
代金引換の便宜にも應ず。

東京市牛込區喜久井町二四番地
振替東京六六〇二番
電話牛込六六〇二番

社エリトア

目次

原色版

裸婦 靜物 マチス
體操 ルグリツト
のポオズ
女の肖像 ローランサン
林檎の靜物 セザンヌ

寫眞版

讀書 ルノアール
黑ギヤサン ルノアール
赤金窓 ルノアール
習作 ルノアール
鳥頭風 ルノアール
卓姉肖 ルノアール
アエ音人會 ルノアール
靜屏 ルノアール
踊演 ルノアール
素描 ルノアール
素描 ルノアール
素描 ルノアール
素描 ルノアール
素描 ルノアール
二人の女 ルノアール
（彫刻）

マチス抄傳　稅所篤二

泰西名家 デツサン集

相術藝の家名匠巨今古西泰ゝるさ示に中の描一線一

普及版

フランス式新裝

四六倍判總アート紙寫眞版五十五葉

ルクニルルンソソススンンントミルヤ
ーーアレヨヨダカカチチラルオンーセナツイ
ルロドママロピピママドリロギボラ

ンエエオオオークンガロヌホンルル
ソラサンガーサンザオアオノド
サミレレツロウオブドミミテコ

ーロルチリトトスルヤアトヌヌオ
ラゼエンセツツンンングロルンン
ーンアイチトラララベクサアアロ
ユケフヴツンブブンウヴヴ
デミラダボテレレルアゴドデシモ

ご用命に御代金引換　送料八十錢　定價壹圓五拾錢

東京市牛込區喜久井町四三番地
電話牛込六六〇二番
振替東京六六〇二番

社エリトア

長谷川昇滯歐作品集

定價一圓八十錢
送料市内十二錢
地方十八錢

四六二倍判

序文　アンドレ・サルモン
一感想　小杉放庵
交友昇君　森田恒友
長谷川君の仕事　山本鼎

原色版（六葉）
オペラに於けるブルガ孃　ブランシエ・エ・ノアル
小憩　手鏡
レクチュール　二裸婦

寫眞版（二十二葉）
◆裸體◆ソファ◆髮むすぶ女◆アンドレサント◆青衣◆讀書◆シャールもつプチイ◆ラ・コーズリー◆カツフエ◆裸體◆踊り子◆レウシツト◆プチイ・ラ◆少女◆若き女◆家庭◆赤髮の女◆ルボオ◆本見る女◆（著者肖像）

現代佛蘭西名家畫集

定價一圓八十錢
送料市内十二錢
地方十八錢

四六二倍判

正宗得三郎編

ボナール・マチス・ピカソ・ドラン
ブラツク・シニヤツク・ドユフイ
スゴンザツク・ルオール・ユトリロ
ローランサン

原色版（十二葉）
帽子を被れる女（ボナール）風景（ボナール）カルタ（ボナール）男の顔（ドラン）裸體（ドラン）肖像（ピカソ）赤い敷物のある靜物（ピカソ）金魚（マチス）西班牙風俗の女（マチス）アネモネ（ドユフイ）靜物（ブラツク）マルセエユ（シニヤツク）

寫眞版（十二葉）
風景（ボナール）魚（マチス）林間讀書（マチス）泉（ピカソ）ペンを持てる女（ピカソ）裸體（ブラツク）女君（ロオランサン）女の肖像（ドラン）假裝（ドラン）風景（スゴンザツク）風景（ユトリロ）曲馬の娘（ルオー）

東京市牛込區
喜久井町三四
アトリエ社
電話牛込六四二一番
振替東京六六〇〇二番

梅原龍三郎畫集

四六二倍判・原色版十葉・寫眞版十六葉

原色版
▲自畫像▲巴里の女▲熱海▲ナルシース▲ベスビオとナポリ▲青磁に梨リンゴ▲秋山▲臥裸婦▲江ノ浦▲壺の菊

寫眞版
▲女の像▲洗足裸婦▲モレー▲讀書婦▲ナポリ▲首飾り▲椿▲座裸婦▲座裸婦▲南歐風景▲座裸婦▲座裸婦▲座裸婦▲座裸婦▲江ノ浦の家▲江ノ浦の山

普及版

定價各一圓八十錢
送料市内十二錢・地方十八錢

東京牛込喜久井町三四
電話牛込六四二一番
振替東京六六〇〇二番
アトリエ社

石井柏亭畫集

四六二倍判・原色版十葉・寫眞版十六葉

序文（レオンス・ベネヂツト氏）・自序

原色版
▲荷蘭の子供▲ガンの堀割▲洞爺湖▲厨▲老太々▲外套を着たる夫人▲ナポリ灣▲アスシジの春▲曇日——▲ヴエトイユ▲湖畔の夕

寫眞版
▲運河に沿へる並木▲机邊▲ボンコマと其寶物▲紅蓮▲農園の一部▲團扇を持てる女▲茂木翁像▲伊豆山▲裸體習作▲サンミツシエル橋▲リツチモンド▲O夫人像▲ソレント▲T女史の像▲自籠の入江▲工場

ミレエ畫集

新裝★普及版

版	寫眞
	像妻古人者鐘事間男女女厩冬女し
	のの初最の立つ牧つ運のぶ
	畫穫るつ
	畫最の穫る嫉れ
	エの穫嫉凭に
	ミレエ馬殺杖晩食待鍬手羊山鳥若豚春ゲ母

色	原
	「ルベルベ」へびひ
	尼の幾越
	野良運拾
	森の薪穂
	落

版	寫眞
	崖庭婦り景し家人人古人屋人ススス
	の近の家農
	附作風
	ユなるへ菊の
	イヴ照飼飼
	レのエ草伐の使小刈ーーーー
	ヴのレ人を物馬焼毛ススススス
	人羊牛猪森施ミ二石鋼鍬災羊エエエ

ミレエの作品に接して、その嵩高深玄なる田園牧歌の神韻に心打たれざるものがあらうか。彼の藝術は遠く今日に於いても世界衆民によつて普く親しまれてゐる。温き愛を以つて自然と人生の嚴相を寫し、その寫實主義の正道は美術史上に期を劃し、又彼のデツサンに至つては古今無比の名筆として類を斷つ。ミレエの藝術に三嘆を惜しまざる者は、先づ此畫集を備へ置かれたい。

定價一圓五十錢　送料　市内十二錢　地方十八錢

裝幀葉數傳
美四八略
判版三エ
倍色版レ
六眞ミ
四原寫

社アトリエ
東京市牛込區喜久井町三十四番地
振替東京六〇〇二四六番
電話牛込六六二一番

アトリエ素描選集　第一輯

ドラクロア素描集

EUGÉNE DELACROIX

四六倍判◆上製◆裝美雅典

内容

習作……1
馬のクロツキイ……2
馬の習作……3
ヒエレー夫人……4
獅撒を願へるリシユルユー……5
皮を剝がれた虎による習作……6
ヴアルモンド風景……7
ザン・シルヴエストル……8
クロツキイ……9
モール人……10
メキネエの想ひ出……11
マホメツト……12
若きモロツコ婦人……13
コブマン・パーストの隱者……14
天才の勝利……15
イタリーを擊滅するアツチイラ……16
クロツキイ……17
ピレネー山脈の山人……18
印度人の習作……19
シヤルル・ドラクロア將軍……20
樹木の習作……21
舟の習作……22
花の習作……23
ストラスブルグのゴチツク彫刻……24
デツサン……25
希臘の士官……26
習作……27
習作……28
習作……29
虎のクロツキイ……30

定價1.50　送料　市内0.12　地方0.18

社アトリエ
東京市牛込區喜久井町三十四番地
振替東京六〇〇二四六番・電話牛込一二一番

普及版

ゴオホ畫集

世界藝術史上に於いて、眞に天才の名を以つて稱ばるゝ者、わがヴアン・ゴオホこそ其匹頭に屈指さるゝであらう。彼は心血を以つて畫布を塗り、自然の體熱を筆中に移し、烈しき動脈をその畫中に波打たせた。彼の繪畫に於ける自然の容姿と詩的情景は、快適なる感覺の刺戟を以つて觀る者をして激しく壓倒せしむる。代表作と傑作を收めたる此畫集によつて彼の藝術に飽くなく陶醉せられよ。

四六倍判美裝・原色版四葉・寫眞版三十葉・ゴオホ略傳

定價1.50

原色版	
自畫像	1
ズアーブ兵	2
向日葵	3
レミー病院の一日	4

寫眞版	
自畫像	5
自畫像	6
包帶した男の頭部	7
看護婦ルーラン夫人像	8
醫師ガシエの肖像	9
竹の精神病院の一室	10
青年農婦の肖像	11
プロヴアンスの農婦	12
草刈人夫	13
プロヴアンスの農婦	14
種蒔く人	15
收穫の群	16
街の庭園	17
オーヴェルの眺望	18
花盛りのプーリー	19
パガンヴの寢室	20
婆アルルの風景	21
アルルの向日葵	22
夜のカフエ	23
チョツキを着た男（和蘭婦人の模寫）	24
土掘り（ミレエの模寫）	25
馬鈴薯を喰ふ人々（和蘭農婦工場）	26
ヌーナンへの道（和蘭婦人と彩水）（パステル）	27
和蘭婦人の肖像	28
綠色の車	29
青い車	30

東京市牛込區喜久井町三四
アトリエ社
振替東京六六〇〇二番
電話牛込四六二一番

普及版

ルノアール畫集

古今婦女の裸形は最も魅力に富む畫題として扱はれ來つたが、ルノアールの作に見る如き甘美優麗、濃艶幻想の豊かなるものはない。色彩は寶玉の輝きがあり、純粹なる畫家的官能は、後期印象派作家中、比類がない。傑作は凡て本集に依つて收め盡されてゐる。

原色版	
像嬉女女	1
る少	2
へのヤ向ミへ	3
にへ	4
育機鏡ボ	5

寫眞版	
犬屋羊粧め裝女女（描）遠女園げ者家女遠女女一歌女女女女女兒猫	1
と牝化蓄	2
女部との初	3
る牛女	4
す人牝すき	5
みとみ	6
浴婦牛浴歩髮浴浴水野マお道少臥水眠色臥女花眠浴浴浴林素素	7

東京市牛込區喜久井町三四
アトリエ社
振替東京六六〇〇二番
電話牛込四六二一番

四六倍判・原色版四葉・寫眞版三十葉・ルノアール略傳

定價一圓五十錢（送料市内十二錢地方十八錢）

最新刊◆最良の油畫實習書

油畫の研究

四六判◆上製美裝◆定價一圓二十錢　送料市內十二錢・地方十八錢

四十講目◆二十五氏執筆◆口繪原色版八葉

こゝに集め收めた各講目は何れもアトリエ誌上に掲載せられた、油畫實習上に關する頗る有益なる文字である。適當なる按配を以つて編成され、一體となつたこれだけの講目が、油畫研究者に正しき敎導を務むるに、十分な講座として役立つであらうことを確信する。讀者は本書によつて、現代洋畫壇の諸大家より親しく聽くの思ひを以つて、その懇切にして貴重なる講話から多くを學び、研究せられたい。敢て諸君に自薦する良書の一つである。

美術家を志す人へ　山本鼎
初學入門の人達に　萬鐵五郎
繪を初める人へ　高間惣七
油繪を學ぶ初步の人へ　奥村博史
制作に就いて　横井禮市
繪を描く氣持に就いて　林武
畫の見方　中川一政
油繪に就いて　山本鼎
制作問答　中川一政
色彩問答　櫛原龍三郎
構圖に就いて　櫛重克之
大作的構圖と小品的構圖　小出克之
大作の用意と順序　鍋井克之
筆觸に就いて　鍋井克之
畫面の手ざはり　鍋井克之
畫面の肌ざはり　田邊至
バックに就いて　中川紀元
繪の幅と仕上げとの關係　石川欽一郎
新傾向の技巧に就いて　林倭衛
風景畫　中川一政

油繪と新線　山本鼎
都會とその風景畫に就て　金三郎
風景畫の構圖に就て　大野隆德
點景人物に就いて　大野隆德
靜物畫　正宗得三郎
靜物畫を描くに就いて　横井禮市
靜物畫に就いて　椿貞雄
裸體畫に就いて　長谷川昇
人物畫に就いて　木下孝則
內體と背景の關係の要訣　前田寬治
美しきポーズ　中川紀元
材料と表現　小出楢重
油繪具の事　山下新太郎
油繪具に就いて　櫛原龍三郎
繪具の變色　和田英作
油繪具雜話　和田英作
色の變色不變色に就いて　高間惣七
私のパレットの公開　椿貞雄
カンヴアスの作り方　遠山五郎
油繪具の溶解油に就いて　山下新太郎
三上知治

東京・牛込・喜久井町三十四
振替東京六六〇〇二・電話牛込六四二一
アトリエ社

素描習作に懇切無二の伴侶

デッサンの研究

普及版

定價金壹圓　送料市內十二錢・地方十八錢

四六版・口繪三十葉・清洒雅裝・大好評

本書はデッサンの敎科書でも指導書でもない。本書はデッサンをかくの如く描くべしと敎へないかはりに、諸君は諸大家の一言一句の中から、最も自由に、聰明に、デッサンについての材料、技法、知識、勉强法、などを自ら自在に摘出活用して研究することが出來る。

★

立派な素描　森田恒友
素描　正宗得三郎
デッサンに就て　小林萬吾
デッサンの價値　遠山五郎
線描に就て　小杉未醒
素描と塵遺　河野通勢
素描と塵遺　石井鶴三
デッサン　中川一政
純藝術としての素描　梅原龍三郎
裸體で踊る素描　佐藤武遺
鉛筆畫藝術　山村耕花
デッサンに就て　サルウエイ
デッサンに就て　山本鼎
クロッキイ　山本鼎
素描の話　倉田白羊
クロッキイ　倉田白羊
初學者とデッサン　萬鐵五郎
デッサンに就て　ドニ
スケッチの必要　鶴田吾郎

★

東京・牛込・喜久井町三十四
振替東京六六〇〇二・電話牛込六四二一
アトリエ社

普及版

セザンヌ畫集

美術千年の夢を破つた近代美術の先覺セザンヌの偉業、凡ゆる作家は彼の道を辿つて成長した。今日なほ、美術を語り、製作をなす者は先づセザンヌを學び、彼の藝術を咀嚼することから始まる。人物、風景、靜物、彼の鋭き觀察の結晶、その彼の藝術の全容を本集によつて究められよ。

四六二倍判・原色版四葉・寫眞版三十葉・セザンヌ略傳

原色版

シヨツケ氏の肖像
浴女
ピスクと林檎
風景

寫眞版

自畫像
自畫像
麥藁帽を冠る人
G君の肖像
自畫像
シユツフロンの肖像
老人
マルデイグラの假裝
綠色帽のセゼンヌ夫人
ガスケ氏の像
シヤンテイの森
ガルダンヌ風景
エスタツク風景
村の廣場
カルタとる人物
靜物
踊り（模寫）
水浴
水浴
樹下水浴
エスタツク風景
サン・ヴイクトアル山
ガルダンヌ風景
オーヴル・シユール・オワーズ
マロニエ
曲りかどの家
大きな松の木
首絞りの家
エスタツクの岩
トロネ風景

東京市牛込喜久井町三四

アトリエ社

振替東京六六〇〇二番
電話牛込六四二一番

定價一圓五十錢　送料市内十二錢・地方十八錢

26. 5. 10

83-486
1200501327941
S
事故本
落丁による欠ページ
ドガ『朝の支度』
ピサロ『ルヴァシエンヌ遠望』
シスレー『風景』
セザンヌ『男の肖像』
ゴオホ『鉄橋』
以上の原色版ページ
複本・同本なし
2003、12、15、発見